聖教ちゝ部抄　全

珠

へ 5
1791

へ 5

芭蕉翁

野ざらし紀行

宮内省圖書寮

そもそも世うし畏耶居士の丈室りかりひ
深川とふ所に水さを草は庵ふきうて
世ようくまとすむ翁あり名かは桃青ハ
もと武蔵の国に住ける頃ハ
いくばくの月日ふくもちの中の頃ハ
其草を結ひ侘て植て置て庵の名とす
芭蕉ハ標ちにとへよしあまきハ天下色蕉の
はをなし称して其句格殊ほかに殊絶
高雅にいはゆる西行の

杖の下の我角法師抖擻の修行泉石は
爲まひちらに坐臥せしかちを休世に負享それの
我此いほりを我出て世の和の間るぬる人新
記の一篇あるを筆りはめに野ちしを
心ゑ出めて出ぬ月よ一つのまを世ゑよ人す
修ちしの記の行らふ者運はうしう
髓骨の影して色を人声我さくに法ゆて法と
よある頼るかなひてふく無常の動を我ちるま
本来の面目我忍ぶる人ゑ法の外まを世

ちる人は於ひ人を
金我すりくるをして法の人の魂我ちる法
素堂翁これ踏法をりてをそくを必我
の人法をまを今まるこのにいふへをもはを
ちる紀昔積翠出人ありて此記我をてあをふ
ハのをまを古人の詩論をそ中に発出へき
古百詩をまてあやうく書はのりをち
あをまを文三化法ハを人の机下にあを氏
ちあをまを彼業稽我也法りはの人ぬ

と我七十生人も世にあくがれまいせくけ
能の爲出つくかいみるへもなまれぬ世に
世事のうきほひうせもうとうめるけまい上木
して同好の人々にあへひとくくとまもむ
百紙書ふとなるまはすべて蕉翁の諧化世了
かくまとめもとすきとうあるもあるいひとくにを德の
あふ目光乃花はつへうるよれまいそのあ
一黙雷紙なれもあるあ

文化癸酉

隨齋義序

芭蕉翁の句碑のもとめ野さらしを心の
剖いとを指ゝてよりうゑきて草鞋をきく
ゝとしくれ年のくれを思ふもちの
夏ゝ花聞ゝ冬風と奥ゝ外の松さゝる
帰庵は惣ゝ恵ゝ風をとゝ隠る寂ゝまてうん
ゝ移ゝる島の跡のゝ杉のひゝ葉はひろく
世のゝ人の知る所なりさをゝ何はこゝ

樹翠居士世をいまそうしをりゝ
みちゝこゝろはるゝ夜ともちれ中ゝ乃条れ
ゝるもゝ有ゝをゝて古ゝのしゝこゝ記し
給ゝる反古はるもゝとより切者は平
ゝ為ゝ為きゝみゝあゝ林ゝ分草のゝ
つけゝ夢ゝ乃巣ゝ為ゝ為ゝをゝむゝ
ゝ結れをゝこゝ林のつちゝを動を
まゝゝ野ゝゝ翠園物と名

つきて梓にのぼせんとす時も今文化
十年秋八月風はけしきをそゝぐ事
なるを新たに序を代自序也

○此紀行八貞享元年甲子にて桃青四十一歳
なりし今世に行るる甲子吟行と題せる
手のゝ書記なり風國の句和集にもれ
ともつたる人ゝ多し安永九年秋瓜
門人波静再板せるに此題号ハ許六ゝ滑
稽傳ゝ那さらゝ紀行の名ゝ名ゝ
かゝ題せる也

千里ゝ旅ゝ立て路粮なしゝ三更月下
入無何とゝ云人ゝ杖ゝ

○江湖風月集 三山偃溪聞和尚の偈ゝ

路不資粮笑復歌三更月下入無何郷

平誰整閑戈甲王庫初無如是刀

貞享甲子秋八月江上の破屋をいづる程

風の吹うるる袋哉也

○山家集ゆ

ゆけばいきゆき秋ゆく神ぞ手つ歌

秋十とせ江上の月見ること

○賈島詩ゆ客舎并州已十霜歸心日夜

懐咸陽無端更渡桑乾水却望并州是

古郷

古郷や冬枯日里伊賀路東武深川ゆ住

故ゆ此感ぜ

冥々ゆ雲ハ西海て山皆雲ゆ

霧〳〵〳〵冨士

○深川の蕉より書ゆ冨士ゆ第松山

ゆ見て却て忘ること

仍某ちと云ふ事ありしのたまけと

ちて美いさ心を以て仕る常ゆ

莫逆の交ゆ朋友信ぜるゆ此人

○唐楊寧與陽城爲莫逆交

深川や芭蕉を富士ゆ訪ひ　ちり

○芭蕉を富士ゆ見ぬ日ぞ冬ごもり

富士川のほとりを行みるに、たゞ捨
子のみなれば注ひかの此川の早瀬みるけて
うき世の波を渡くふ為えん哀なるの
御仏なほ捨おきたまふ小萩ちるまの秋の風
今宵やたゞ人小萩ちるまの秋の風
哀なれ捨てとなるに
○源氏椎柴に
いとゞ人小萩ちるまの秋の山里
撰集抄に法性寺殿の法師の子を
捨ものをみて
たゞ捨ものをみて
たゞ捨ものをみて

捨ものを捨ものを捨ものを
てものを捨ものを捨ものを
西良縁とかなしくよしなくて
猿を聞人捨子に秋の風いふ
○白船集みくの字疑しく伝て白選に猿
をきくと語る○杜律聽猿實下三聲
淚○引
ゆゆしの母ふ為ちまを
いとゞやは汝父母
ゆゆしの母ふ為ちまを
父は汝をみむ
ゆゆしの母ふ為ちまを
唯天みて汝性の

[illegible]

○本朝文鑑ハ此ヲ[illegible]注曰拾子ハ秋
の風いふ[illegible]同けていふ[illegible]
ひけ[illegible]但〻詞を立る時ハ手数の法
拾遺ハ[illegible]や富士川の源もとゝ浮世の
浪ハいひ[illegible]此川をいふ歟ハ[illegible]
小萩ハ[illegible]源氏の歌ハ[illegible]毎の時也
ハ荘子ハ[illegible]性をいふ○素堂此評也富
士川の拾子ハ惻隱の心[illegible]
早瀬を枕とし拾を直[illegible]流
とゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]昔ハ人の拾ハ[illegible]思ひ[illegible]
[illegible]也

大井川越[illegible]
秋の[illegible]江戸拾ハ大井川[illegible]
[illegible]上ハ
[illegible]拾を馬ハ[illegible]
○[illegible]評ハ山路来て[illegible]
むし[illegible]
○滑稽傳ハ[illegible]
西風拾を[illegible]

[illegible]

○朗詠集ニ松柏千年終
是朽槿花一日自為榮

[illegible]

○杜牧早行　垂鞭信馬行数里未鷄鳴
林下帶殘夢葉落時忽驚霜凝孤雁迴
月曉遠山横僮僕休辭險何時世路平

[illegible]

[illegible]

○浮屠又浮圖ニ梵語也又曰塔婆譯曰
高顯按ニ寺院の邊稱ニ用ル故ニ
[illegible]

[illegible]

[illegible]峰の松風身にしむまでうそ寒き夜
[illegible]

みてうつしたまへるの杉を抱いて

○素堂評 みゆきして山田の原の神杉を
いつきみてうつしもちまきおもひをのべ侍るの
おもてにあらはれて和歌の道もたゞ
[illegible]○西行 物語山神路山の風おろせ、
峰の[illegible]素堂 宮川の流れ清き御祓を
[illegible]海 [illegible]の松をとんやきいふ[illegible]せの
[illegible]杉[illegible]同 [illegible]山の月[illegible]い
[illegible]素堂 [illegible]人[illegible]月の

光もたゞこの[illegible]神路山月[illegible]
[illegible]
○杉[illegible]西行 [illegible]月の[illegible]
[illegible]宮[illegible]
[illegible]て杉をいつきたてまつるなり
西行 [illegible]の櫛みがきけ
[illegible]

芋洗ふ女西行 [illegible]
○素堂評 [illegible]西行 [illegible]
女[illegible]芋洗ふ
[illegible]

世ゐのうつくしきを菓子にかたどりて名を霞白せきといひけるを女ひとりの結をしたりしを出付けるを菓の事也てふの翅ゐとしるしたるを

○左傳ゐ蘭有國香人服媚之○赤草紙ゐ此白ハひとりの菓子のうつくしきをたとへたるを老翁をとゝ初てけるゐ也

問ゐ侍し家女料理持出て白を新のもの女の日ゑハ中家の樽女ちうしを今ハほど

の妻とゝ孔しけるを先のけうしも勢ゐ

樽女を書とゝ須彩彼の家国中家ゐ

ワとゝ女をとゝけて白を新しきをとゝ侍をとゝ侍きるまてといひもてきまう

ゐ如をけるまいとゝかゝてとゝ彩彼

の老人の白ゐ富ゐ菓のおつるの恨和の和

とゝ白を歩ゐ中白を選とゝ

和とゝ名をとゝとゝかいひける

とゝ○桜とゝゐ はをし菓ゐ世の人ゐ心

侍とゝけるゐ色歌ゐ老人の心をおろ

とゝかとゝ白ひとゝハかのゐとゝゐ

ちとゝく衣裳ゐ白きゐ中とゝとゝ

とゝゐ女白ひゐを必心とゝめゐとゝ和人

久米仙人ハ物洗ふ女のくるぶしの白きを見て
通を失ひ人ハ[illegible]
のきゝうゝ昆[illegible]
[illegible]人ハ[illegible]の色
[illegible]

閑人の茅舍をとゝのひて
[illegible]竹四五本の[illegible]

○聯珠詩格劉改之詩ハ翠竹無多第一
奇止憂喧聒俗人知清風自足老僧用
只是窓前欠好詩

長月の初古人より海うて北堂の萱草を
[illegible]

○北堂又萱堂ハ毛詩ハ焉得諼草言樹
之背注萱草令人忘憂背北堂也

[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

○樂天の詩ハ年終四十鬢如霜
大和の國ハ[illegible]の郷[illegible]の[illegible]
[illegible]四里ハ[illegible]

見て休む

○行脚八事苑に謂遠離郷里脚行天下
脱情捐累尋訪師友求法證悟

○素堂評に云く古を紹隆し衆を導き
仏四立幸の家に頃家に世出世人とたゞ
道を山海里の堂に[illegible]
二上山麓に[illegible]
[illegible]

ともい石一八人を悲情といて毎仏縁に
ひれて谷行の羅を[illegible]
[illegible]
[illegible]

○和州巡覧記に當麻寺八又禅林寺といふ
用明帝第四皇子麻苗子親王の建立なり
○白氏集題流溝寺古松烟葉葱龍蒼
壁尾霜皮駁落紫龍鱗欲知松老看壁
壁死却題詩幾許人
獨[illegible]の奥に[illegible]山
[illegible]雲峰に[illegible]を埋て山峨の

家毒しみちのくに西みまを伐て東みひらき院くの終の在て心の底みてふ昔より此山みへて世をそむきしこゝろ知みの道ふかくいるいて唐土の廬山といふんもまさむくもやの

○廬山 山南康軍山北是九江郡山中有三百六十余寺天下第一勝地也

沾却て我みきこの世よりも地の毒

○朗詠み擣衣碪上俄添怨別聲○評抹小

引よりあの山ゆ杜鵑きよふけて石ゆ

ゝと名ゝ元ゝ山ちう笑書みよ

ゝ名ゝ

評み藝の技ふ在ゝて技毒よきあ

この名ん昔潯陽の江乃ほとりみ樂天

を法ゝむ人の毒のゝ人ゝ

ゝ也技ゝ技ゝの技ゝいゝみ技ゝ

ゝゝみゝ技ゝ

潯陽の琵琶行 古文前集 ○ 桜ゝみゝ

ゝ喜藏院南陽院ゝいる毒常の寺

技ゝ技ゝ○三平氏みよゝ也のゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

みゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ

西上人の草菴の跡ハ奥の院より右の方
二町ばかり分入ほど柴人のかよふ道
のミわづかに有てさがしき谷をへだてた
るいとたふとしかのとくとくの清水ハ
昔にかはらずとみえて今もとくとくと
雫落ける

露とくとく心みに浮世すゝがばや

○西行法師の歌にとくとくと落る岩
間の苔清水くみほすほどもなきすま
ゐかなとよめるよし素堂かたりし
と合点集に見えたり或人云吉野山家集

及撰集抄にも見えたり諷詞にも清水
の詠ともおもはれたり掬ぶに句の上
たとへに虚實にあてゝそゝぎぬるにや
若是扶桑に伯夷あらば必口をすゝがんもし
許由に告ば耳を洗ん

○扶桑ハ日本の一名也東ハ山海経淮南子
等に詳し伯夷許由がことハ人皆知所也
山を登り坂を下るに秋の日既に斜に
なれば名ある所々見のこして先後醍醐
帝の御廟を拝む

御廟年経て忍ぶは何をしのぶ草

○順徳院御製　引歌やぬるき新編の
[illegible]
○撰集抄ニ新院の御墓所を尋ね
[illegible]
[illegible]
大和より山城を経て近江路にて美濃
路にもるいるより山中を尋ていみじ常盤
の塚ゆ伊勢の守武ゝ以ゝ義朝殿ニ
ゆゝ秋風ゝ以つ巻の所ゝ
象也又
ゝ朝の心ゝ秋乃風

○評林ニ守武ゝ[illegible]ゝ朝の義性の
[illegible]
一句の詮ゝ[illegible]○句解ニ那河の内
海の秋風ニ涙を[illegible]句ゝ
ゝ歐陽永叔秋聲賦曰夫秋刑官也
於時爲陰又兵象也於行爲金是謂天
地之義氣常以肅殺而爲心○説叢ニ翁
ハ守武ゝ理屈をゝ[illegible]て今我句ハ
も秋風ハ義朝ゝ心ゝ[illegible]ゝと云ゝ
ゝ[illegible]ニ情理屈ゝ[illegible]て
秋風の義朝の[illegible]ゝ[illegible]

ちり○桜ちる木の下武千句の興行ありけ
れば宗匠人々に仰ぎ句を月々朝
暮の興ありけれども秋風と詠ずる世俗心を自
ずから秋風と付ずして秋風と付ずして
よりて秋と付ずして自然と秋の詠
一句ありけれども義理之支坂ありて春の秋風
なり秋ありと付ずして秋風
兵象肅殺ありて八月ありさまなる人
説義の説のごとき義理ありて秋風と
いなん毛秋風ありて秋ありしかども
いつまでも同じ句ありけん予が宗不宗武の

白川紫白一附付ありて一句の上八付ずして
付ずしてやきこえ侍ず坂ありて世俗もいつまで
の不ありけれども坂ありけん芭蕉も一句きこえ
ありあり坂ありて武の詞をとりまぜてありて
心ありて字を入ずしてありてありしものの
宗匠の秋風ありて秋風と付せる
なりけり玉代一覧をありあり中納言卷
京信卷大形ありて付せずして
後白河上皇先ずを中納言入ず信西ず
御詠ありて付ずして大形ありて付ずして
ありけり大形ありて戒ずきとありて付ず

[illegible]きんとて朝をうらふ
義朝勢ゐをかりて清盛をうらんと同
じく卒治元年十二月平家大将ゐの
宮戦す信頼誅せらる明年正月[illegible]
尾張國野間ゐて長田忠宗ゐ殺せらる
時ゐ三十八歳[illegible]朝妻常盤美人なり
清盛ゐ妾となる
不破
秋風や藪もたをるけも石破の関
○新古今集ゐ人すまぬふ破ゐせきゐ
の松もたをるけも後ゐ只秋の風

大抵ゐ作りなる歌ハ木因ゐ家ゐ[illegible]
ゐ武義弾ゐ[illegible]形ゐ[illegible]
ゐおもひて[illegible]
ゐゐゐ孫の果ゐ秋の実
○[illegible]の句思ひ合す[illegible]
素名本當寺ゐて
ゐ牡丹子ゐ[illegible]
○峯白集ゐ鉢ゐ[illegible]
ゐの松ゐ[illegible]嘯ゐの一巻ゐ
影七ゐの年深山ゐて[illegible]人
ゐゐ[illegible]

[illegible]の秋は[illegible]ほのぐらき海小
浜[illegible]
明石乃や白魚[illegible]一寸
○東石の浜ふて海人らの魚をとりて國
の守に[illegible]
[illegible]東石の海を[illegible]
[illegible]切て梨花ともに[illegible]
[illegible]天然二寸の魚と[illegible]
[illegible]○梅[illegible]杜子美白小詩に天然
二寸魚[illegible]
熟田[illegible]社[illegible]大[illegible]

[illegible]村[illegible]この[illegible]縄[illegible]小社の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○熟田三[illegible]仙[illegible]神[illegible]
名護屋[illegible]
狂句木枯の身[illegible]
○[illegible]集[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]

覚えず苦哉歌の文字は國ふたとうし
るたとふと思ひもてゆかる○七部捜ふ
吏登白深き意味はりやたうの先は
たとつかさふ〜八仏秋と古人うう歌文
詩をみも牡丹の文字とはうとふみ我
身の心〜〜ふと八重当ちふとうとう
ふみ歌と竹とうふも牡丹よりう家も牡丹
をいふ人ちやとうてのみて八ちう〜論巨
の心みうてうふきう翁近代後門人
牡丹の事をうて集をうみも〜
〜〜文かうきうう○按うみ吏登ふ

俗言つのちの〜仏高八ふてうふいき
醫術みて牡丹をう〜老人竹称ふふう
とうふはうとう事ちんうせ虚栗の
跋み栗といふ一書世味四ハはう李杜ハ心
酒を寿て寒山ハ法粥を啜るとうみう
て〜うのうふみ遥みて寺みをう〜
俗と風雅のよふはつ称ふはうぬを西ハの
山家をたつふて人の於ぬも〜竹を栗く
とうふふう〜集天和二年門人其角ハ
遥〜はうふ胸中故芋法ふ女西ハちふ八
奇ふふ事の竹ふはう又牡丹八芋俗ふみ也

此頃ハ句端のくすえ禄の奥羽より御座も
誹諧むさしや甲斐ての きらしよふ所
をしたと後に誹諧の一字を名きてる
おしみ俳諧となりしとぞ生れ
これより此発句の二字出来て俳諧の連
狂歌我を発句とよぶなりし 笈の
小文にかきたるハ俳諧百骸九竅
の中に物有かりに名つけて風羅坊
といふ誠にうすものゝ風に破れやす
からんことをいふにやあらんかれ狂句を好
ことひさし終に生涯のはかりことゝなす

下略 こよなくも謙退ならしかるの御
師より後発句の二字をふきはされにはすへく
誹諧集にみえて世俗に用ゆる 後に
ふまへるに説く 〇 伏見物語 天和三刊行 に説
けるを清洲の宗匠なるやみえかる梅
ちいさき町に宗匠なる看板をかかけし
何も又折ふしちるまへハ破紙に
布つけ常に木綿の衣をけふに
ハいかにもなしがたき紙のころもをさし
のけものなきをかきものなる 〇 定家家集
に「まきぬる人の秋の夜に歌ゐる

[illegible]森の[illegible]の金[illegible]

[illegible]

○新古今集ハ家隆[illegible]

[illegible]

市人[illegible]の傘

○笈日記ハ抱月亭[illegible]

[illegible]

難[illegible]抱月ら眼ら

以市尊行可以加人

○老子曰美言可

[illegible]人[illegible]

馬[illegible]

○笈日記ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海をこゆ

海をこゆ

○古今物語に「[illegible]ハ信濃の中山をこゆ

[illegible]」

天和の比の作なり是ホハ俗の世界ちがひ

求めてこゆ

[illegible]

[illegible]杖を拾て脇差

[illegible]

[illegible]

○素堂ホ[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

○山家集に 陸奥[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○枕に田舎[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○二月堂八羂索院と号す故に観音[illegible]
[illegible]狩の井 [illegible]狩の玉書[illegible]明神明伽
[illegible]云一とせ旱して[illegible]
井の[illegible]狩の[illegible]
[illegible]毎年二月十[illegible]
[illegible]垢離堂[illegible]一書[illegible]
[illegible]小[illegible]氷[illegible]
[illegible]井秋風[illegible]の山家

梅林

[illegible]

○林和靖傳ハ林公逋字君復結廬西湖之孤山賜謚曰和靖先生筆談曰林逋隱居孤山常蓄兩鶴縱之則飛入雲霄盤旋久之復入籠中逋常泛小艇遊西湖諸寺有客至童子出應門延客開籠縱鶴良久逋歸常以鶴飛爲驗○林和靖詩疎影橫斜水清淺暗香浮動月黃昏○素堂評ハ[illegible]
[illegible]井秋風の梅林を[illegible]
[illegible]西湖ハ佳人の[illegible]
[illegible]梅を素[illegible]

こゝろ葉むくけ乃句のしかゐかんとす
かゝらるゝなし○古来拙ふ古来云
古蔵集ふ此句を好けて先師のことを
なりして此句直ってとらる是ホなれ
の心を離さて毎く此句つかし世ふ知ら
とや秋風ら後の筆家ふなれ事ホなれ
さら山家ふ閑ありて詩文をたのしミ
離人をなすると云て一ツきふむくらる連
京ふまえ風雅堰於の人と思ひ正ふる
よりも先師の心ふ俳諧なりし評者
のんふ俳諧ありき後去もし拙けとも

折好てなや此評をこうてゐゝるゝ俳諧
なるゝのを知ふ走り暁く無し極あるゝ
又句鋪の物しうしきれてこまのへなり
子友一巡の後評とえ糸ふなるゝ
櫻乃木の花ゐら歯ちぬ姿のあれ
○熱田三哥仙ふ劉するまをとてふふ
つなくと秋風ゝ振あり○吐綬鶏集ふ秋風
のゑふまゝつきてとゝ中古ゐゝり○読叢ふ
櫻の花の句となせてえ謡りく
伏見西岸寺任口上人ふ逢て
我きぬふふしみの桃の雫せよ

○浄土宗西岸寺三世寶譽上人俳名仕口

大津ゐるゝ山路をゝんて

山路来ゝゆゝゆゝ菫哉

○素堂詠ゐ山路ゐて

むくけこうきゝの秀逸ゝ

○蕉の句素ゐ山路ゐ菫ゝけゝ

ゝれしをゝゝ人ゐん来ゝゝと雑ゝ

有房の句ゝゝゝ山ゝゝきふのつゐ菫

ゝいゝゝ歌をゝ不幸ゐゝゝゝゝ

人のゝゝゝゐゝゝゝゝ○桜ゐ堀

川ゝゝ医房ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゐの眺望ゝゝ

ゝゝ崎のゝゝゝゝゝ勝ゝゝ

○雑詠条ゐ伏見ゐゝ一歩俳諧ゝゝ

ゝゝゐ傍ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐ大津尚白ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ味近ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中古の歌仙みな[illegible]是非のさゝひを
知ることをおほなべて人さまでも皆誠心
俗情の骨髓をひらかれたるもあるべし
知るべきことを人の極的みなさまの
の業をも為白とゆゑ中みやと不審
しかるべきみ哉とあるの為白みて白の
事ことを論ずふるべきを考へ哉
うるゝ白ちなべきを白みを白ちとして
如くハこれ中まれたるべし徹底
をとゝらまをたれらも狂徹しかる
つけたる白中の白他みの的当ちなるべし

此論を再び弱みや述作れて一白の雪
みの知るべ、ちなべ但手すさびみ
分ちなべいなべ浪他皆のべ不
知るべ知るべ知るべ知の花をなるべ中
只眼ちなべ知らべ中されべ
水口みなべ二十事を知べ坂人みなべみ
為石べい中みなべ梅べ
○宋之問ゝ詩ゝ年年歳々花相似歳々
年々人不同
伊豆の國軽ゝ小盆の楽門見も古事の秋ゝ
切ゝ[illegible]べ為石べ中べ桃のべべ

[illegible]尾張の國[illegible]
○桑門、沙門の[illegible]法恩珠林抄詳也
いさ[illegible]抄 穂書[illegible]
此僧の抄[illegible]日圓覺寺の大顛和尚[illegible]
睦月の[illegible]
[illegible]
梅[illegible]抄[illegible]
○鎌倉圓覺寺大顛和尚俳名幻吁[illegible]
其角[illegible]新山家集[illegible]
梅[illegible]睦月の[illegible]
[illegible]梅[illegible]抄[illegible]

杜國[illegible]抄[illegible]
[illegible]蝶の[illegible]
○杜國、[illegible]門人[illegible]
[illegible]相[illegible]や東[illegible]
[illegible]
牡丹葱[illegible]
○幽菓集[illegible]
[illegible]相[illegible]
[illegible]「牡丹葱」[illegible]
[illegible]
[illegible]相[illegible]

甲斐の山中みちを尋て
行程の事みちつくむ中とつのぶ
○甲斐八むら駒みちの国之○東坡紀行
の詩ふ近山麥早
和月は来清み桐のつゝ抜をそゝたに中み
ちつ石いまく風紙とゝ川くさん
○東坡詩ふ窻前捻半風

南紀行翠国抄終

去年の今寺勢をゝ杖戈ゝ石ゝ
ゆくゝ書ゝゝゆくゝ人佛み学ゝゝ
くまゝゝゝゝゝ殘樹みゝゝ

南紀
葉桜や　角ゝ山ゝ寺ゝものゝ偏ふ　輪之
ゝ葉ゝ葉の花見ゝ　ゝゝ岡ゝゝ　雨亭
蟬の蔭ゝ蔭ゝ　ゝゝ牧ゝゝ　椿叟
清麿てゆゝゝ　ゝゝる桜ゝ　牛呂
林草の花ゝゝ　ゝゝを花ゝ　呼牛
くゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ふ爻
五山や遠ゝ人ゝ　ゝみ陽の白ゝ　一醒

朝酒あをめ[illegible]の宮[illegible]　洛　赤海

[illegible]　上毛　可良

[illegible]　武蔵　陽水

小[illegible]の[illegible]　徐柳

[illegible]　兎明

杉田[illegible]

[illegible]

青梅の[illegible]　金沢　萬岳

[illegible]　素笛

[illegible]の花[illegible]　揚州

つつ[illegible]　也　好

[illegible]　左右

[illegible]　蓬子

[illegible]　[illegible]

[illegible]　喜朝

[illegible]　釜甫

[illegible]　桃場

[illegible]　一瓢

[illegible]　其水

中国にて詠うたまうた十五首　兎一

京の地より　絵のうたより　廿　扇社

六月末暑うたうたもとめたる　素堂

暑きうたとかうたきて山　麦風

まうたうたけてもはるかに三笠山　松雄

坂瀬の灌仏

祇園社参詣あるうたうたに　桃隣

山うたも仏はうたうみはるかに　相模　菊社

けしのうたうたに　釈　雪洲

ほうたんのうたうたに　又也

時々鬼神　嘆きしほうたんぶ　扇山

さうめもみき世ともはるかに　摂津　桐柄

南天の花　海辺みたうかうたき里　北紙　弟光

かきつうたうたに　喜游

さみだれやこのうたうたの　環阿

すうたうたの眺めうたうたの暑さ　金堤

海辺にて涼うたうたきうたうたに

芙蓉樓　當座

末のまつうたうたけてうたうたもこそ　一茂

[illegible]抽や[illegible]の高　一甘
松の素[illegible]くいふもより栗[illegible]　一扁
すゝしさ水やゝし湾や秋ゝ　二秋
[illegible]ひやゝし[illegible]山ひゝ　灣来
[illegible]毛来の素ゝ[illegible]　一舟
久[illegible]行[illegible]飯の[illegible]　一蓬
梅干のゝ[illegible]ゝ[illegible]　賀陵

曇夜の真ゝ中[illegible]朝の秋　九子

山ゝ[illegible]仏ゝ[illegible]秋ゝ所　密仙
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　廣陵
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　女一芦
[illegible]来ゝ[illegible]　灣来
沖西のゝ[illegible]ゝ[illegible]　栗堂
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　夜明
[illegible]の[illegible]ゝ　雨柳
[illegible]ゝ[illegible]ゝ　相撰　抽貢
[illegible]ゝ[illegible]ゝ　朱社

縮書やうの物にそなへ人に遠ざ　葛三
茶羊羹ようかんし　秋のわく　占波
秋の夕やゆふ月　敦賀
夕雲のむらくもに　月船
夢覚て目をふさぐ　鶯松
夢羊やとこそ　洞ゝ
俊校　月桂　大旭
こゝろ目をはなれ中　萩の花　南蛮　二由
結結やうしみなるけしの実ホ　柯亭

十六夜八幡宮の　越後　幽哺
人のまつやう秋の　伊勢　丘高
夏ゝけて秋ゝ　陸奥　巣居
所ゝを海ゝ　乙二
煙ゝ　武蔵　雨籟
紅の袋ゝ　朧雨
志ゝ　白逃
遠山ゆ　龍砂

萩の葉をひたすらに萩の葉　完来
柿の葉のちるを迎門の新酒かな　素玩
池子にて
松風も霧ふかしとる葉山哉　一峨
柳風も霧ふかしとる秋の月　梅亭
柳枝ふかさ海の夜霧かな　杭載
三井寺や絵ちいたちて秋の雲　鯉曉
ふるいとは雨ちれて蛙のられ　凡魯
霧雨やすゝめも絵あ蓑横る　子州
ふちの時雨ふるもはるめ萩の花　指月

七夕や葉ふるもとるる秋の雨　久蔵
夜しも裸ちるる丹秋ふる也　謀圃
ちらるあ丹ふ美しき夏方に　桃栗
秋の時つさ重ね葉の葉をこられて　暮草
山伏の山ゝ先一毛ゝ雨ふる　棋壽
秋の時須ゝのいしかるの　佛奴
ふのゝ毛葉ふるを拾ふ拾ふ　成美

ふるゝや花の笑ふのとりて　道彦

志月　春樹

女　立ち丈

無未　樗之

清巳　志ゑた

一澄更

表丁　知足

双雀　五十二

孤月　宇樹

菓兆　氷恵

三化　鬼眼

一茶

職裏風光被火迎

[illegible] 北総 稲彦

門[illegible] 播[illegible] かつら

山寺[illegible] 春風

桑[illegible] 相模 玉河

浦[illegible] 澧水

[illegible]

[illegible] 誓中

[illegible] 呉播

[illegible] 三芳

[illegible] 安房 杉長

[illegible] 南総 有浦

[illegible] 可木

埋[illegible] 肥後 對竹

[illegible] 伊勢 護物

山[illegible] 大阪 長齋

[illegible] 升六

[illegible]　武蔵　白芥
柿の木坂の梅を　蟻六
梅ゝ香の峰ゝ　宗瑞
うゝ迄富士桜も　月堂
咲し煙のゝ　似風
玉ゝのつゝし　五嶺
柔ゝ柳の　素雲
うゝ迄菜の花　松風
隙の岩かゝ　白英

月ゝ迄ゝ丹も田丹　三光
蓮花のゝゝ　雪花
春ゝ桜ゝ　一志
きゝし丹おゝ　山奴
沼松ゝ　化一
春ゝ迄ゝ　桃舎
たゝ桜の　一河
移ゝる春田や　上毛　足草
移ゝて　加賀　音人

[illegible]

尾張　梅間　抵屋

竹有

相模　白雨

宣項

梅渕

長松

文路

芝英

押ひらき　山の関　徐来

[illegible]　西総　天兒

[illegible]　嵐尾

[illegible]　亀水

[illegible]　徹固

[illegible]　[illegible]

伊勢　北総　擽堂　雨塘

[illegible]　山常

加計塩ふ毋我手ふ於葉の水ふ
山けみす秋し乃ふ
ふ毋葉ふ〜さ〜毛をすふ
表の秋をひふ
ひけ木の〜ふ
秋をふ〜ふ
毋ふ毋ふる柳の
秋ふけ七達ふの秋を
ふ秋ふ乃沢ふ

釈 草山 之猛 一甘 女 梦の 桂芝 去雲 素迪 雲水 北二 一径

前ふ〜ふ秋ふ人ふ
一巻

馮田川

加ふ〜ふ社草ふ
味ふ乃ふ
本毋寺ふ
茶ふ
ふ毋ふ
ふ毋ふ

太節 漫〜 甲斐 竹里 越後 道清 常陸 雪雄 洛 榜堂 伊勢

奮友菊齋居士の大祥忌の集みまさきに付れば
いとゝみふるふるひとゝきを成正覚の廻向ふ
の法ゆゝしせそ

捨られし影も移れ秋の月　恒丸
霧の月ゝ向末　拙く山　三化
法級の折縮み素の白ふる世　九
ゆゝしの馬幔子ちるる　化
若ゝして自の筏と漕ぎ　九
薪ゝ花ゝと若ゝみゝ達し　化

秋風の佛ゝ走ゝ鐘の影　全
いつゝ世ゝ山合ゝ袖　九
ひ秋白ゝゝゝ絵ゝ　化
ゝ法の細代ゝ紅ゝ花つ秋　九
拾ふゝ佛ゝ事を蟲まぶ　化
髭髭を入ゝまゝ唐樞　九
稼ゝゝふゝ　化
誘ふ水姫の嘉ゝ重ゝ　九
ゝゝゝゝ若ゝの海ゝ　化

泥棒の名を蕗盗と書る　九
牛蒡面をこつそり舞の子ね仕業　化
今もうけふくんの手ぬぐひの面　九
高名果つゐ筆すてゝ世る海ちせて　全
いつくゝもかの朱塗をとゝてゆる　化
只おもふ笆の菱たゝかれし　九
絹簾の内のつゝまれ所　化
絡ひつゝ河原も象地とまてるうゝ　九
り柔ふめくゝらいの今　化

喰たくなおつゝまてる紅の雲　九
干鱈むけとゝらるゝの涙　化
早稲の香をとゝ松伽羅の言　九
庭みちるまく赤ひみ赤ゆし　化
小世界の末ゝ赤ひみ赤ゆしるゝ　九
蓑ゝふゝゝた　天象ちゝゝ　化
ほゝくきに覚ゝたゝの酒の味　全
涙の流ゝ　恵ゝ法ゝ　九
我儕の恵ゝ一通ゝ　姫乃新　化

板野より蒜の弧を拾ふ　九化

萩の実ひろ[illegible]　化

扇のうらみ　永きたるより　九

追加

[illegible]の中社和ヶ嶽　北藏　有郷

牛山より土となる[illegible]　有樂

ひろ[illegible]　一朝

[illegible]　山峯

秋を編む　南総　東之

萩の花

和ヶ門母郷市の[illegible]川　義之郎　亀毛

[illegible]　洛　月峯

郷中義のこれを仕義を作る郷　蒼乱

あやめ葺女もゆかしきねまきの袖　瓦全

雁かねのうらやましさや秋の暮　信濃 定雅

菜の花もうしろむきても人ぞ住　拝杖

夜の月人あゆみ遠て自投なり　武曰

松の葉やひと日ゆきし紫ある(?)　駿河 菅雅

野分からし秋ある葉は入かく(?)　攝 玉屑

草の本のちるを拾ひて消るかな　土佐 奇淵

跋

あはれなるかな秋風のまにまにこの
秋にひとまとむすよそ人を起ふ綴
さ世ら集ちらりいつかほとりよ也になり
なむ之低坊の是字見か志りて玩味
まかせ乾きし　枝合ちらまて
いやも雁あそりて侍れハ不さを也
梨園子世にいふきの秘しし時
かくかきし　梓よ乃ほとちかからむ

ゆかしのまとものそのあそび
いさ誠に志こゝろたち深き今
たしかに此事の調あしさ秋と
蓮を揮ふこゝろといへる古人の
一言をかまへ春勤めまゐらち
とらへ書をしたゝめつ

文化癸酉秋　枕海

三都書肆

京都寺町通松原下〻町	勝村治右衛門
大坂心齋橋通北久太郎町	河内屋喜兵衛
江戸日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛
同浅草茅町二丁目	須原屋伊八
同日本橋通二丁目	須原屋新兵衛
同所	山城屋佐兵衛
同芝神明前	岡田屋嘉七
同本石町十軒店	英大助
同浅草廣徳寺前	和泉屋庄治郎
同横山町三丁目	和泉屋金右衛門